

令和 6 年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

理科

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観 点	1 学期			2 学期			3 学期
	学 年	課題分析	具体的な改善策	学 年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1 年	○基本的な実験、観察の技能が身につけている。▲計算力に課題があり、密度の求め方など支援が必要である。	・班の中で教え合い活動を多く行い、知識理解を深め合えるようにする。 ・定着するための学習の方法を具体的に説明する。毎時間、前時の振り返りや、既習内容の復習を行うことで関連付け、理解しやすいようにしていく。 ・全員が実験を体験するように声掛けし、技能が身に付くようにする。	1 年	○凸レンズの光、力の矢印の作図が班での教え合いにより技能の向上が見られた。▲学習内容の定着に支援が必要な生徒がいる。	班の中で作図や計算の仕方など教え合い時間を設け、知識・技能を高める。実験の技能を身に付けるには、一人一人が自分の手や目で実験観察を行うことが大切である。班で行う実験を交代して行ったり、分担して行ったりできるよう常に声を掛けるようにする。3 年生では 1， 2 年次の復習を授業内で設定し、学習内容の定着を図る。	班の中の教え合いや、視聴覚教材の活用で理解の深まりが見られた。来年度も教え合い活動や視聴覚教材を工夫して用いる。。
	2 年	○酸化など身近で起こっている化学変化に対して理解が深まった。▲化学式、化学反応式を正確に書けていない生徒がいる。		2 年	○動物のからだのしくみはよく理解できている。▲熱量、電力量の求め方や磁界と電流の向きの学習で混乱気味の生徒が見られた。		天気図から気象の変化が読み取れるようになった。普段の生活に密着させる学習によって理解の深まりが見られた。
	3 年	○エネルギーの移り変わりや遺伝について説明できるようになった。▲仕事の原理の問題など複合的なことに課題がある。		3 年	○授業中パソコンソフトの活用により、天体に対しての理解を深められた。▲1， 2 年次の復習ができておらず定着していない。		人間と自然環境、エネルギー問題について ICT 機器を用いて調べる技能や発表力の向上が見られた。来年度も調べ学習を行う。
思考・判断・表現	1 年	○植物や動物の種類や分類について、観察結果から討議し、思考できた。▲表面的なことにとらわれ、思考を深める場面が少ない。	・班の討議の中で、実験や観察結果から共通点と相違点を見つけたり規則性を見いだしたりするようにする。 ・身の周りにある科学的現象を例をあげて説明することで、関連付けて考えられる力を伸ばすようにする。	1 年	○実験結果に対して積極的に思考・討議する生徒が増えた。▲学習したことを日常の現象と結び付けて考えられていない。	今後も直接的な体験の実験・観察を多く行い、結果からどのようなことが考えられるのか、班内での討議を活発にし、思考・判断・表現の力を伸ばすようにする。日常的なことや最先端の科学のニュースを話題にして授業に取り込むようにする。生徒が発表する場を増やし、多くの生徒が発表することで、表現力を高めるようにする。	地震の起き方、火山のでき方で思考・判断の力を伸ばせた。来年度も課題解決型学習を行う。
	2 年	○実験結果からどのようなことがわかるか、思考する生徒が増えた。▲班での討議でよく発言する生徒が固定化している。		2 年	○回路の電流や電圧の求め方の思考、表現ができていた。▲科学的な思考の発問に対して積極的に思考する生徒が限られている。		気圧配置や前線の様子から天気予報や気象の変化について考えることができた。来年度も課題解決型学習を行う。
	3 年	○学習したことを関連付けて考える生徒が増えてきている。○班での討議で思考の深まりが少しずつ見られるようになった。		3 年	○イオンや天体の動きと身近な生活や現象に対して、科学的に考えようとする生徒が増えた。		科学技術を用いて持続可能な社会をつくる方法について、自分の考えを表現できた。来年度も卒業レポートを行う。
主体的に学習に取り組む態度	1 年	○植物や動物が好きな生徒が多く、積極的に学習しようとする姿勢がある。▲実験や観察の説明が聞けず、集中できないことがある。	・日常的なことや最先端の科学のニュースを話題にして授業で紹介し、取り込むようにする。 ・学習したことが生活や社会とどのように結びついているのかを考え、生かそうとする姿勢を身に付けるようにする。	1 年	○学習したことを振り返り、次の学習に生かそうとする生徒が増えた。○実験・観察は積極的行え、班で協力したり教え合えたりできるようになった。	学習したことが、日常的なことや科学技術にどのように役立っているのか視聴覚機器を活用して、理解を深め、自分の生活や未来の社会や環境と結び付けて考えられるようにする。発展的な学習として、自分の興味あることを ICT 機器を用いて調べ、スライドにして発表する授業を実施する。身近な事象やニュースを話題にして授業に取り込み、展開するようにする。	火山の形とマグマのねばりけの学習で主体的に取り組む姿勢が見られた。来年度も生徒の興味を引く導入を組み入れていく。
	2 年	○学習したことを自分や社会に生かそうとする発言が見られた。 ▲主体的に学習に取り組む態度に個人差がある。。		2 年	○実験の準備・片付けはきちんと行っている。▲学習したことを次の学習につなげたり自分の生活に活かそうとしたりする姿勢が少ない。		気象観測や日々の気象の変化の学習で主体的に取り組める姿勢が見られた。来年度も生活に関連付けた学習を組み入れていく。
	3 年	○実験や観察に対して取り組む姿勢が向上している。▲質問に対して積極的に答える生徒が限られている。		3 年	○次の学習につなげて取り組む姿勢が見られるようになった。▲入試に向け、1， 2 年次の復習を行っている生徒が少ない。		「持続可能な社会をつくる方法」発表で主体的に取り組める姿勢が見られた。来年度もテーマ別学習を組み入れていく。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業	・生徒が興味関心のもてる課題設定をし、班での討議が活発に行えるようにする。 ・班内での教え合い活動により、コミュニケーション能力を高められるようにする。		○実験、観察の結果からの班での討議で、生徒の主体性やコミュニケーションを高める場面が見られた。 ○班での教え合い活動が行えるようになってきたが、うまく聞けない生徒への対応が課題である。	・ I C T 機器を活用し、生徒の興味あるテーマについて情報収集能力やプレゼンテーション能力を高める取組を行う。 ・与えられた課題について、生徒が班での対話をとおして、考えを深め、主体的に学習に取り組む時間を多く設定する。		・パソコンソフト、視聴覚教材を用いて天体の動きなど理解を深められた。疑問に対して班での討議で対話的で思考を深める授業を展開できた。 ・生徒が自ら振り返る時間はとれているが、次の学習につなげさせるようにすることが課題である。	身のまわにある事物現象の学習に対して主体的に取り組む姿勢が見られた。班内での討議や教え合いで理解が深まる生徒が増えてきている。今後の課題は長期間の学習の定着と、読解力や知識を生かした判断力の育成である。